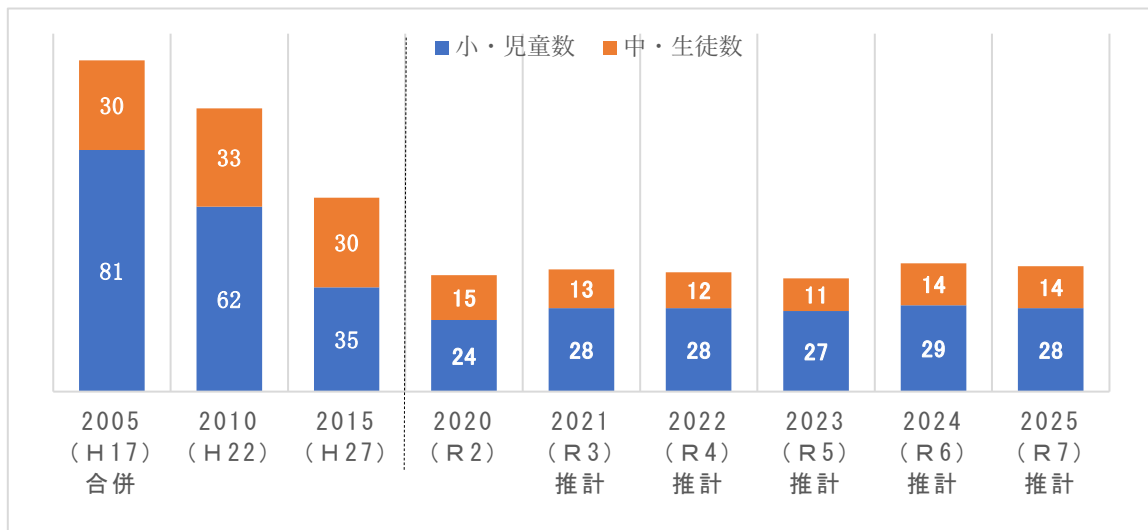
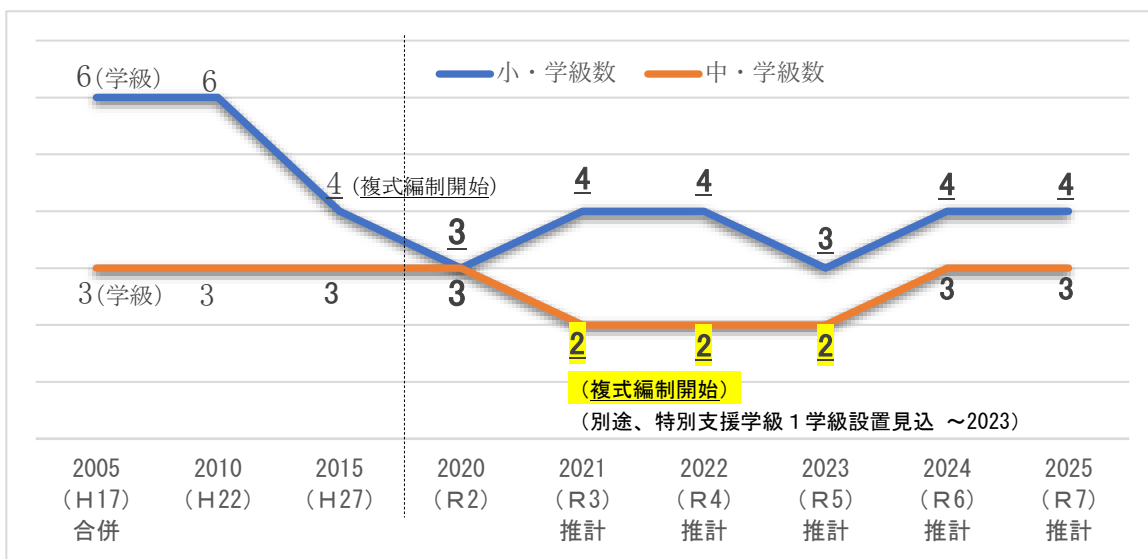


浜益区の教育環境の現状について

児童生徒数の推移



普通学級数の推移



学年別の児童生徒数・学級編制（単式・複式）の推移・推計

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計	小中合計
R 2 (2020)	4	4	5	5	4	1 (1)	23 (1)	6	5	4	15	39
R 3 (2021)	6	4	4	5	5	4	28	1 (1)	6	5	12 (1)	41
R 4 (2022)	4	6	4	4	5	5	28	4	1 (1)	6	11 (1)	40
R 5 (2023)	4	4	6	4	4	5	27	5	4	1 (1)	10 (1)	38
R 6 (2024)	7	4	4	6	4	4	29	5	5	4	14	43
R 7 (2025)	3	7	4	4	6	4	28	4	5	5	14	42

※ () の数字は、特別支援学級の児童生徒数を表す。

※R 3以降の児童生徒数（推計）は、各年度の学年別児童生徒数を次年度にスライドさせた数値であり、社会的要因は加味していない。

■ 普通学級の減による浜益中学校の教員数への影響

令和2年度 【定数】 9 + 養護 + 事務

11人体制

★生徒数 15 ★3学級（普通学級3）

定数で配置できないことから
免許外申請による指導

校長	教頭								
国語 (美術)	理科	社会	数学	英語	保健体育 (技術)	音楽 (家庭)	美術	技術家庭	
養護	事務								

注1) 網掛けは充足している配置。() は免許外申請での指導教科。



令和3年度 【定数】 6 + 特別支援 + 養護

8人体制

★生徒数 13 ★3学級（普通学級2 特別支援1）

免許外申請による指導
教科が増える

校長	教頭								
国語	理科	社会	数学	英語	保健体育	音楽	美術	技術家庭	特別支援
養護	事務								

注1) 来年度は特別支援の担当が5教科のうち1教科を担当する方向で調整

注2) 3学級で生徒数が14人以下となり事務職員の配置なし

注3) 免許外教科担任解消のために時間講師は任用できるが、浜益に来ていただける方を見つけるのは困難。加配による正規職員の配置がないと学校運営は厳しい。

■ 普通学級の増による浜益小学校の教員数

令和2年度 【定数】 5 + 特別支援 + 養護 + 事務

8人体制

★児童数 24 ★4学級（普通学級3 特別支援1）



令和3年度 【定数】 6 + 養護 + 事務

変わらず

★児童数 28 ★4学級（普通学級4）

■ 浜益小学校の学校施設の現状

建物情報一覧表

 : 築50年以上
 : 築30年以上
 基準 2020

A : 概ね良好
 C : 広範囲に劣化
B : 部分的に劣化
 D : 早急に対応する必要がある

建物基本情報											構造躯体の健全性				劣化状況評価					備考				
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	用途区分		構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根・屋上	外壁		内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
					学校種別	建物用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査年度	試算上の区分							
31	880	浜益小学校	校舎	1	小学校	校舎	RC	2	1,600	1976	S51	44	旧	済	-	2019	長寿命	C	C	C	C	C	40	
32	880	浜益小学校	屋体	2	小学校	体育館	S	2	627	1977	S52	43	旧	済	済	2019	長寿命	B	B	C	C	C	53	



■ デメリットを克服するために・・・

● 「小中一貫教育」の導入、実施

期待できる効果 ～ 義務教育学校・厚田学園の取組から ～

子ども

- ・児童生徒が、多様な教職員や異学年（1～9年生）で関わる機会が増える。
 - 小学生は、中学校進学に対する不安軽減が図られる。
 - 上級生は、下級生に対するリーダーシップや自尊感情が高められる。
- ・授業時間を「全学年 50 分」に統一する。
 - 学力向上、定着につながる。
 - （小学校は 45 分授業・・・毎日 5 分の差の積み重ねは大きい！）
- ・早期カリキュラムの導入
 - 一学年上の授業単元を前取りできる。
 - 5・6年生から部活動体験ができる・・・など。

先生

- ・小学校と中学校の教員同士が一つの学校組織に所属することとなり、それぞれの違いがわかり、認め合うことができる。
 - 学校長が掲げる教育目標や子ども像、教師像等を共有して、義務教育 9 年間で児童生徒を育てることへの意識が高められる。
 - ・小学校段階での教科担任制の一部導入や、教科指導の中学校の先生による「小学校への乗り入れ授業」を行うことができる。
 - 子どもは、早い段階から専門的でわかりやすい授業を受けられる。
 - 学校として、9年間の教育課程や児童生徒の発達を見通すことができるなど、小中の結びつきが高められる。
- “ チーム学校 ” の風土、機運醸成につながる。

保護者・地域

- ・兄弟姉妹を持つ保護者は、学校が一つであることの安心感につながっている。
- ・学校行事が小中一体化することで、地域のイベントとしての存在意義が高まる。
- ・コミュニティ・スクールとしての学校づくりを円滑に進められる。